

《健康・生涯学習部会からの報告》

市民スポーツ大会球技の部に向けて、8月6日（日曜日）東西条地域センターにてパタンク教室を行いました。当日は16名の参加をいただき、5チームに分かれて対戦しました。初めての参加者もおられ楽しい時間を過ごしていただきました。（部会長：岡田 育三）



《地域活性化部会からの報告》

「第45回吉土実ぼんおどり」 主催：吉土実盆踊り保存会

8月13日（日）午後7時半から9時、東西条地域センター・駐車場において吉土実ぼんおどり大会を行いました。初めに吉土実盆踊り保存会の岡田育三会長から開会挨拶、またご来賓の市長をはじめ国会議員、県会議員の方々から祝辞を頂きました。今回はコロナ感染症が5類に移行されましたが、昨年と同様、規模を縮小して入場者のアルコール消毒を実施し開催いたしました。当日、昼間は猛烈な暑さでしたが開催時刻ごろ曇り空になり若干暑さが和らいで観客の方々に夏の一夜を楽しんでいただけたと思います。

今年は入場者が昨年より多かったようです。これも多くの皆様にご協力を頂いたことによるものと感謝申し上げます。また、8月21日に午後7時から安芸国分寺において施餓鬼法要奉納盆踊りが行われました。（部会長：松原 國昭）



設立10周年記念事業：安芸国分寺出土品講演会、展示会

「国分寺跡土坑出土品」が令和5年6月27日に国の重要文化財に指定されたことを記念して、12月2日（土）10時から講演会を東西条地域センターで行います。併せて12月1日～8日まで、土坑と呼ばれる穴から見つかった252点のうち数点をパネル展で紹介いたします。地元の歴史を身近に感じて下さい。



《自治協からのお知らせ》

市民スポーツ大会 秋季・球技の部 開催されます！！

日時 令和5年9月24日（日）

場所 アクアパーク（東広島運動公園）、福富多目的グラウンド福富小・中学校グラウンド他

※雨天の場合は、競技種目（ソフトボール・グラウンドゴルフ男女の部・ソフトバレーボール男女の部・室内パタンク男女不問）が変更となる場合があります

東西条地区住民自治協議会 所管区域内 人口・世帯数

R5. 4. 30 現在

男性3,677 女性3,629 合計7,306 世帯数3,481

R4. 4. 30 現在（参考）

男性3,620 女性3,568 合計7,188 世帯数3,396

ご意見募集中

右のQRコードからアンケートに回答いただくかFAXや地域センターのポストへの投函でも良いのでご意見をお願いします。今後の東西条住民自治協議会の活動や東西条住民自治協議会だより編集の参考にさせていただきます。



東西条地区住民自治協議会だより

「人と歴史が緑を醸す笑顔と交流のまち東西条」



第62号

令和5年9月25日発行

東西条地区住民自治協議会 事務局 TEL/FAX 082-421-2023

収穫の秋、文化芸術の秋です

丹精込めて育てられた稲が、猛暑の夏をのり越えて、豊かな実りをもたらしました。収穫の秋を迎えています。そして、文化芸術の秋でもあります。

毎日のように「熱中症警戒アラート」が発令され、体調管理を心配する夏でしたが、暑さも収まり、過ごしやすい季節になりました。皆さんお元気にお過ごしでしょうか。

新型コロナは、感染症法上、5類に変更されましたが、お盆には移動する人が増加し、現在、感染者が増加する傾向にあります。手指消毒、検温、密となる場面でのマスクの着用など基本的な感染予防対策に気を付けていただきますようお願い申し上げます。

住民自治協議会創立10周年記念事業の一つ「若者視点から企画する事業」は、7月より、13人のメンバーからなる「ひがしさいじょう若者会議」を設け、アイデアを持ち寄って、10年の節目となる事業の企画を進めております。

さて、自治協設立当初に、当地区の将来的な姿やそれを実現する行動計画を内容とする「まちづくり計画」を定め、この計画に基づき活動を進めてきました。10年の間に、住宅団地やマンションの建設に伴う人口の増加、国道・県道の拡幅や商業施設の新設等による交通量の増加、自然災害の多発傾向、高齢者が集う場の増加など、新たな状況が生まれています。このような変化の中、住民の皆様のご意向を伺い、計画の見直しを行うことにしました。今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。（東西条地区住民自治協議会会長 井林 宏司）



《白い彼岸花》

全国大会出場おめでとう！

“東西条小学校
第20回スナッグゴルフ対抗戦
JGTO カップ全国大会出場
おめでとうございます。”



《防犯・防災部会からの報告》

学区防災訓練&情報伝達訓練

6月25日(日) 9:00~ 会場:東西条地域センター(本部)、吉行集会所

<一部> 災害時の初動で最も重要とされる「情報伝達及び避難訓練」

<二部> 「消火訓練」「水防訓練」「救急救命訓練」

市・消防署および消防団にご指導いただき、参加者305人により盛大に開催されました。

第一部の情報伝達訓練では、東西条自主防災会連合会全体会議(5月)で発足のラインネットの活用により“避難勧告”発令を速やかに各自主防災会長へ伝達することが出来ました。



防犯大会(みまもりネット交流会)

7月16日(日) 9:30~ 会場:東西条地域センター 東西条小学校本間教頭、講演会講師 東広島警察署白井係長にご出席いただき、“防犯大会(みまもりネット交流会)”が開催されました。開会に先立ち、日頃から見守り活動にご尽力を頂いている4名(欠席2名)の方に、本間教頭先生と井林会長から感謝状の贈呈を行い、続いて東広島警察署白井係長から「東広島市の犯罪発生状況と特殊詐欺対策」と題してご講習を頂きました。その後、みまもりネット会員(22名)で、日頃の見守り活動で気付いた事、改善点、会員の募集方法等について話し合いが行われました。



防災研修会

7月23日(日) 9:30~ 会場:東西条地域センター 研修会講師 東広島市危機管理課 石丸主幹、高田主査様をお招きし、平素から各区で自主防災活動をされている自主防災会長他29名出席のもと(1)ハザードマップから読み解く“我家の危険性”(2)溜池の危険度評価と氾濫区域(3)“家族で話合っておこう!避難のタイミング他”の研修会が開催されました。いざという時に慌てず行動するためには“日頃から自分の住んでいる地域の危険性や危険な所を知っておくことが大切”です。災害の時には“冷静な判断ができない”ことがあります。落ち着いて考えられる普段から、いざという時に備えることが大切です。(部会長:渡橋 誠)



《総務部会からの報告》

総務部会では普段より、当自治協区域内にて企業活動を営む皆様との交流により、自治協活動の理解と、緊急時の迅速な連携を進めるため、ご協力をお願いしております。地域の法人・個人事業者の皆さまを対象にして、「事業者のDX(*デジタル・トランスフォーマー)推進」と題し、講演会と交流会を計画しています。*「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」(経済産業省「デジタル・ガバナンスコード」より) (部会長:山崎 和美)

講演会・交流会日時:11月27日(月) 14:00~15:30 会場:東西条地域センター
問合せ・予約受付:東西条地域センター (Tel.082-421-2023)

《福祉部会からの報告》

子育て講演会

5月28日(日) 14:00~ 会場:東西条地域センター
住民自治協議会10周年記念事業「ファミリーコンサート」を開催しました。

沖田孝司様(ヴィオラ)と沖田千春様(ピアノ)をお迎えし、乳児から高齢者まで家族で参加の皆様を中心に82名の参加を得て、お二人の素敵な演奏とお話、そして参加者も一緒に歌って踊って楽しく素晴らしい時間が過ごせました。これからもファミリーで参加できる、楽しく有意義な企画を考えていければと思います。(部会長:原 弘)



《地域活性化部会からの報告》

楽しかったね!星空まつり

7月22日(土)に東西条地域センターで東西条星空まつりが開催され、親子連れ、友達同士、地域の方など500名の方で賑わいました。プラネタリウムや夜空の映像を上映した星空コーナー、チケットを使ってゲームブースをめぐるゲームコーナー、フローリング上でカーリングを競うユニカル体験コーナー等、多くのブースが出展され、こども達が地域の方と交流しました。(東西条星空まつり実行委員会:向谷 司)



ドキュメンタリー証言・あなたはその時、なにを考え・行動しましたか！！

① 《西条町吉行・西条インターチェンジ北、総領団地内にて山崩れ》 Mさんの証言

7月6日午後11時頃、外が何も見えないほどの大雨。翌朝大きな音が聞こえ、「土砂が近所の家に向かって流れている」と近隣住人から知らせを受けました。隣家の庭は土砂で埋め尽くされていました。自宅も床下浸水し、雨が長引くとどうなるのだろうかとても不安で、土砂の勢い、怖さを体験しました。幸いなことに流れ込んだ土砂は真砂土だったので、泥水の処理に比べると気持ちは楽でした。地域住人で協議し、重機コンボ2台レンタルしました。約2週間かけて真砂土を取り除き、すべての掃除が済むまでに約1か月かかりました。近所に住む近畿大学の学生4人が機械の入らない処を手掘りで作業し助けてくれました。公設ボランティアに依頼することなく、地元住民の結束で対応できました。

「夜中にゴロゴロという異音がしていた」という話があり、災害の前兆だったようです。

この区域はおだやかな傾斜の山で、ハザードマップの土砂災害警戒区域ではありません。しかし今回のような大雨（線状降水帯）が発生すると起こりうる災害だそうです。広島県の標語に「あなたの大事な人を悲しませない。だから避難を」とあります。事前の避難準備を怠らず、すぐに避難したいと思いました。現在は砂防ダム・砂防堰堤が完成しており、少し安心しています。

② 《西条町吉行 鴨が池団地内へ土砂流出》 Oさんの証言

夜も遅くなり自宅の2階寝室で読書をしていたところ、激しい雨音に混じって「バキバキ」という木が折れるような音が遠くに聞こえた。すぐに妻にそのことを伝え、とりあえず必要だろうと思う品物をカバンに入れ家を出た。私の家は山腹にある団地の一番上にあり、並びの段には他に家が一軒と菜園があるだけで、下の段から家が広がっている。家の外は真っ暗で状況がよくわからなかった。山の近くにある駐車場から車のライトを点けたすぐ側まで土砂が迫っているのが見えた。団地を下る途中に自治会長兼防災委員長の家に立ち寄り、状況を説明。念のために今夜は家を出ると伝え、必要なら近くの人にも連絡して欲しいと話した。

避難所は、福祉センターに設置していると、防災無線で情報を得ていたが、人が多いのではないかと考え、駅前にあるコイン駐車場に車を入れ市内のホテルに電話を入れるが、どこも満室で宿が取れず車の中で一夜を過ごした。朝になり、家は無事だろうか心配しながら帰ると団地上の道路には土砂が流れ出し、菜園は土砂・大石や大木などで多いところで1メートル近く埋まっていた。自宅は裏庭に数センチくらいの土砂が流れ込んだだけで建物に被害はなかった。

その日は、長靴や土のう袋など復旧作業に必要な物を買ひ、団地の人と一緒に道路の土砂撤去作業を行った後、予約できたホテルに宿泊した。

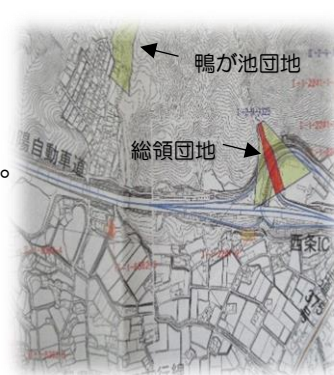
災害後、何日か仕事を休んで団地内の道路や側溝の土砂の撤去を行い、何カ月もかけて休日の度に自宅周りの側溝や庭に積もった土砂などの撤去を行った。

＜体験の振り返り＞

- 1、木が折れる音がして危険を感じてから逃げる決心をすぐにしたことがよかった。
- 2、豪雨災害を経験してこなかったことから、今まで災害を他人事と思っていたことを反省している。
- 3、災害後の復旧に関しては、自宅敷地内や周辺の土砂撤去などを地域住民の人、行政の方等が力を貸してくださり、復旧や今後の備えも多くの人々が協力し合って進められた。
- 4、災害に対する備えも、災害が起きた後の対応も、率先して動くリーダーと協力し合って行動するメンバーが必要だと実感した。
- 5、あの日から5年、だんだん防災への意識が薄れていくのではないかと危惧している。



治山ダム



治山ダム

③ 《西条土与丸1丁目が内面氾濫》 賃貸マンションオーナーIさんの証言

連日雨が降り続き、災害当日大雨の予報を聞きマンション玄関前に「土のう」を積みました。予想をはるかに越える雨量で、1階のエレベーターホールが10cm以上浸水しました。駐車場の車もタイヤが見えなくなるほどで、目の前の光景が現実とは思えませんでした。エレベーター地下にある電気設備は水びたしで停電し、ピット内を排水して頂き、三日後に仮復旧しました。

翌年の夏、対策として防水板を購入しマンション玄関に設置しました。自ら対応するしかないのですが、玄関用に防水板20kgを2セット、10kg板を運ぶのはとても重く、大きな負担になっています。大雨予報のたびに防水板を準備し、年間6~7回使っています。近年の雨は、短期間・大量かつ深夜帯が多く、常態化しているように感じます。東広島市には抜本的な雨水対策が望まれるところです。



ゆめタウン東側

④ 《西条町土与丸・希望が丘団地最上部の山崩れ》 Mさんの証言

一晩中降り続いた雨もやみ、翌朝8時か9時頃、姪と電話でお互いの様子を話していると、地面を突き上げる様な鈍い音と共に、山の土のにおいが鼻をつき思わず「うわー！」と声をあげると隣家の住人に大声で呼ばれ外に出ました。家と家の間から、緑の葉を付けた立木が立ったまま、バサッと倒れる様子が目に入り、啞然として眺めるしかなく怪物の様に見えました。普段のちよちよとした水の流れは、大きな川に変身していました。翌日、小川を見に行くと大きな流木が横にささり沢山の小枝がたまりプールになっていました。流木を1本1本抜き取り、少しでも水が流れやすい様に作業しましたが、手に負えませんでした。次に雨が降ったら、家屋に流水が来るのは確実に思えました。まずは応急措置として、流木を取り除いて頂くように市役所をお願いに行くしかありませんでした。川の流れが少し減り、プールになった所の下は空洞になっており、どこまで浸食しているかわからない状況になっていました。流木の切り口を見るたびにその時の事が鮮明に思い出されます。



⑤ 《平成11年山崩れ災害 西条町助実谷地区》 Mさんの証言

平成11年9月15日、午前2時、胸騒ぎのするほど雨が激しく降り続いていました。そして聞きなれない音。母屋に降りると、突然玄関が壊れて泥水が家に流れ込みました。とっさの事で、洗面器で水をかき出し、パニック状態でした。それから119番へ電話し、助けを求めました。消防隊員の方が来られ、すぐ避難するようにと言われました。家族と共にずぶ濡れになりながら、松賀中学校に避難しましたが、当時はまだ防災意識も低く、中に入る事も出来ませんでした。翌朝、家に帰って見た景色は忘れられません。田畑は土石流で覆われ、家の倒壊は免れましたが、床上浸水で車は川に流され呆然としました。その日から近所の方々、親戚、職場の方の手助けを借りて長い時をかけた元の生活に戻ることが出来ました。災害は他人事ではありません。思いもよらずいつ何時、起こるかわかりません。異常気象が続く今こそ、防災意識を高めて、災害に備えなければいけないと思います。

台風や大雨などの自然災害が東広島市でも頻発しています。あの「平成30年7月の西日本豪雨」から5年が過ぎましたが、復旧はまだ完了していません。とりわけ恒常的に行われるべきインフラ整備ができていない、既存の河川改修事業や内面氾濫を引き起こす雨水対策事業が強く望まれます。

これまで大きな被害のなかった地域も例外ではなく、自然災害への備えを日常生活の中で意識して取り入れて生活しなくてはなりません。自分や家族の命を守る防災のほか、財産喪失の痛手を最小限に抑える手だても必要です。本当に災害は恐ろしい、「備えが必要」と思って頂くため特集をくみました。

この東西条小学校区内でも多くの山崩れが発生いたしました。その時の災害に直面された皆様から「経験して知り得た知識・生の声」を集めてみました。皆様ができる「今後の避難方法等」や「自分の命を守る備え」の参考にして頂きたい。